

単に教会の教えとしての秘跡を学ぶだけでなく、それが現代社会にはどのような問題となって表れているかを発展して考える。

●——信仰を持って生きるということ

洗礼の秘跡をテーマとするこのステージの始めの方の集いでは、信仰を持って生きるとはどういうことかを分かち合う。このときにとっても助けになることは、すでに洗礼を受けた人たちの分かち合いである。

まず最初に、「信じる」とはどういうことか、「信仰を持って生きる」とは、どう生きることなのかを問いかける。この集いは受講者が洗礼を受けることを決断するときに、その決断の助けとしてもっていくのがよいと思う。入門講座のクライマックスでもある。

さてどんな答えがあがってくるであろうか？ 読者のかたがたも、自分で答えを考えてほしい。

入門講座では皆があげた答えを黒板や模造紙に書き連ねていくようにする。答えとしてあがってきたことを以下に列挙しよう。

* 毎週日曜日に教会に行く * 教会の献金を払う
先ずこういう具体的なことがあげられるはずである。

傑作として受け入れ、かけがえのない人として愛することができるといえる * どんな逆境にあっても希望と喜びをもって神に信頼して生きることができるといえる
核心に迫っている指摘だと思ふ。こう生きたいと確かに思ふ。そういう願いを持って生きることなのかもしれない。

「まだ出ていない答えがあるはず、たとえば教会には日曜日に行つて、献金を払えばそれでいいのかな？」とヒントを与える。

* ローマ教皇を頭とする世界の教会の信徒と連帯感をもつ * 教会共同体の一員として、教会の活動に参加する * 教会の伝統の価値をみとめられる

* 教会がこの世における「神の国」の具体的なあらわれであることを信じ、それにふさわしくなりたいと願ひ、そのために努力している * 死んでも魂は不滅であることを信じ、天国に希望を託すことができる
きる

「自分だけの信仰であつていいのだろうか？」とも問ひ返す。

* 自分がクリスチャンであることをカミングアウトして生きる * 周りの人にも救われているという喜

* 神の存在を信じて生きる * イエスが、救い主キリストであることを信じる

このような抽象的な答えがあげられたときには「確かにこれも重要な答えだけれど、それは具体的にいうとどういふことをさらに考えてほしい」と問ひ返す。

* 毎日の生活のなかで祈る習慣を持つている * 生活のなかでしばしば聖書を読む * 定期的に「ゆるしの秘跡」を受ける。自分の罪がそれによってゆるされることを信じる * 「信仰宣言」にある信仰箇条を信じる * 十戒と教会の掟を守つて生きる * 悪を避け、罪の誘惑に陥らずに善を行う

これを守つて生きていくのは結構大変そうである。受講者もこういうことをいわれると自信をなくして洗礼を受けようと踏み切れなくなるのではないか。信者でも自信を持つて言い切れる人は多くはないことをつけ加えなければなるまい。

* イエスの示された愛を實踐して生きる * 「小さくされた人」「見捨てられてゐる人」の立場に立つて行動する * お金とか名誉とか安定した生活とかの世俗的な価値よりも大切な価値を求めて生きる * こんな自分を含めてどんな人でも神さまの最高の

びをもたらすことができる * 人々に福音を告げることができるといえる * 自分の生きてゐる場を少しでも福音的にするように努める

ずいぶんたくさんあがつてきた。まだ挙げられるだろうが、このあたりでやめておこう。これまで挙げられたことを振り返つて、「この中でもっとも大事なことは何だろうか？ キリスト者だけにあつて、信仰を持つていない人にはないことは何か？」と問ひかけよう。

どれも一番大事であるかをいうのは難しい。人によつてもその答えが違い、結局は正しい答えはないのではないかと思ふ。そう言つて終わつてしまふのも何か無責任であるような気がするから、「私の気に入つた答え」を紹介する。それは「神の呼びかけにこたへるという生き方を選択する」というものである。こたへればすべてを言い尽くしてゐるような気がするのだが、どうだろう。

●——キリストを知ること

そして最後に次の話を読む。アントニー・デ・メロである。これも気に入つてゐる「答え」だ。この話を